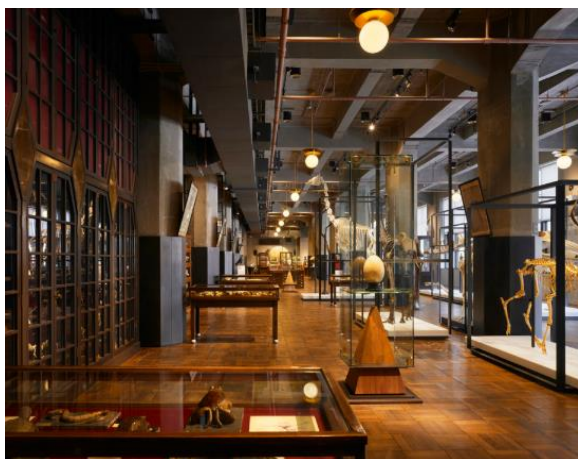


# インターメディアテク INTERMEDIATHEQUE

東京・丸の内

2019年11月9日



東京駅丸の内南口にはかつて東京中央郵便局がありました。旧丸ビルとともに丸の内のシンボリックな建物でしたが、現在はJPタワーという高層ビルに生まれ変わり、かつての建物の外観のみが保存されています。インターメディアテクは、その2階、3階にある、日本郵便株式会社と東京大学総合研究博物館との協働により作られたユニークな博物館です。

「インターメディアテク」という名称は、様々なメディアをつないで新しい文化を生み出すという意図を込めてつけられました。

東京大学の所蔵する解剖学、考古学、生物学、エンジニアリング、地理学、地質学、数学、現代美術、古生物学など、さまざまな学問分野の標本や資料が展示されています。しかも、それらはジャンル別、時代別に展示されているのではなく、思いもかけない形で並べられています。従来の博物館のように収蔵するだけでなく、その展示の仕方も見どころになっています。

このような博物館が丸の内にあるということは、東京という街に新たな魅力を付け加えることになるのかもしれませんが。展示されている標本越しに、レトロな雰囲気の漂う東京駅を眺めることができ。一方には、丸ビルなどの最先端高層ビルが目に入ります。大正一昭和を代表する建築物である東京駅、中の展示物は明治から集められたものと、様々な時間が重なり合った、不思議な雰囲気を味わうことができます。





2階の展示場からは丸ビルが見えます。



蓄音機演奏会の行われる教室

特に、2階の展示室は、天井が高くキリン、鯨をはじめ大型動物の骨格見本が狭苦しさを感じさせることなく展示されています。また、展示品を並べておく什器の多くは、東京大学（東京帝国大学）のものをアレンジして使っています。

ヨーロッパを中心に19世紀に盛んになったのが、博物学でした。世界中の動物、植物の標本のコレクションが行われてきました。博物館は、その時代から発展してきたのですが、時代が変わるとともに、その持つ意味も大きく変わりつつあります。インターメディアテクについて、館長の西野嘉章さんは次のように語っています。「現代のミュージアムは、われわれ人間が自分たちを取り巻く世界をどのように受け止めてきたのか、その俯瞰的な眺めを末永く存続させるための場所であるというだけでなく、そこに集められたモノやコレクションからどのような新しい知見や表現を導き出すかとができるか、その可能性を探求し、提示する場所でもなくてはならないのです。」

19世紀、20世紀と進展を続けてきた科学・技術の世界は、21世紀に入って大きな転換点を迎えています。それに対してどう答えていくか、先人たちの築いてきたものを見直すきっかけに、このインターメディアテクのような展示はなりそうな気がします。

展示物の多くは、東京大学が蓄積してきたものですが、それ以外にも世界の博物館とのコラボレーションを実施しています。また、蓄音機のコレクションの展示があり、その蓄音機を使った、音楽会が月に一度開催されています。会場は、インターメディアテク内に設けられている帝国大学時代の階段教室で、私も一度訪ねてみたいと思っています。 (八代 啓一)

インターメディアテクのホームページ <http://www.intermediatheque.jp/>

アクセス

東京都千代田区丸の内2-7-2 KITTE 2・3階

JR 東京駅丸の内南口から徒歩1分／丸の内線東京駅地下道より直結

千代田線二重橋前駅（4番出口）より徒歩約2分